

手品を活かした地域貢献プロジェクト ～セカンドシーズン～

代表者 近成 麻子 (教育学部学校教育教員養成課程 2 年)

1. 目的と概要

本プロジェクトは、小学校や幼稚園や施設などで手品やバルーンアート、ジャグリングを見てもらい、手品の不思議さ、バルーンアートの楽しさ、ジャグリングの凄さを伝え、楽しい一時を過ごしてもらうことを目的としています。

2. 実施スケジュール

活動日時	活動場所
平成 19 年 7 月 13 日	綾南町総合運動公園
8 月 16 日	木太北部小学校 学童保育
8 月 19 日	香川町西部広域クリーンセンター東側河川敷
8 月 30 日	NPO 法人アフタースクール香川 (ASK)
9 月 3 日	高松市林町 特別養護老人ホームさくら荘
9 月 16・17 日	サンポート高松 さぬきフェスタ
9 月 29 日	新居浜市民文化センター 四国学生マジシャン合同発表会
10 月 7 日	香川大学 未来からの留学生
10 月 20 日	高松市多肥下町 ウェルライフガーデン高松
10 月 27 日	高松市春日町 地域活動支援センター サン
11 月 2・3 日	香川大学 大学祭
11 月 3 日	香川大学工学部祭
11 月 23 日	壱番街 タックスウォークラリー2007
12 月 14 日	香川大学キャリアカフェ クリスマス会
12 月 27 日	高松市松島町 市民文化センター
平成 20 年 1 月 7 日	木太北部小学校 学童保育
2 月 28 日	同上

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、主に学童保育や老人ホーム、また地域での催し物で行われてきました。内容はマジックショー・ジャグリングショー・バルーン配布など多岐にわたります。またお客さんの前で演じるだけでなく、学童保育では子どもたちと一緒に遊ぶなど、良きお兄さん・お姉さんとして活動できたと思います。「また今度もお願いします」というお言葉もいただき、自分たちの活動が地域の方に喜ばれているということを実感できました。



昨年のチラシより

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

手品は老若男女問わず人気であるため、様々な年齢層の方がいらっしゃる場へお声をかけていただきます。より質の高い手品をしようとすれば、どうしても金銭的な不安が生まれます。しかしこの事業に採択されたことで、私たちの団体は経済的なゆとりを持つことができました。そのため地域の方々から「謝金等の心配をせず、気軽にお願ひできて助かる」というご意見をいただきます。大学生が積極的に地域へ出ていくことは、香川大学のめざす「地域に根ざした大学」に大いに関与していると考えます。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

まずひとつめに、多くの人の中で演技する機会が多いため、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力など「魅せ方」の力がついたと感じます。他にも職員の方との打ち合わせを通じ、社交性やマナーも勉強することができました。そして何よりも、私たち自身が「手品の楽しさ」を再認識できたことにあります。学童保育の子どもたちから「あの時の手品のお兄さんとお姉さんだ！今度は何見せてくれるの？」と笑顔をもらえたときは、「ああ手品ってこんなにも人の心を引き寄せるものなんだなあ」と感じ、さらに技術の向上を図りたいと思いました。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

まず反省点は、①参加型の手品が少なかったことです。私たちの技術向上はもちろんですが、バルーンアートや簡単な手品など、もっと子どもたちも手品に触れる機会の提供が必要ではないかと感じました。②また昨年度からホームページを開設し、より地域の方々に知っていただけるようになりましたが、あくまで非公認団体のため、まだまだ知名度は低いのではないかと考えます。

今後の抱負は、以上のような反省点を踏まえ、①については、クラフト中心の手品の充実、②については、大学の公認団体になることで認知度を高めていき、より充実した活動を行っていきたいです。

7. 実施メンバー

代表者	近成 麻子（教育学部2年）	
構成員	佐藤 悦子（教育学部2年）	横谷 昌浩（教育学部1年）
	滝川 育実（教育学部2年）	吉川 雄基（教育学部1年）

瀧原未奈子 (教育学部 2 年)
谷川和歌子 (教育学部 2 年)
羽原 壮希 (教育学部 2 年)
末澤 陽子 (教育学部 1 年)
西森 優真 (教育学部 1 年)
三宅 悠介 (教育学部 1 年)

中村 彩香 (教育学部 1 年)
中原あずさ (経済学部 1 年)
安政 真央 (経済学部 1 年)
今井 雄二 (工学部 2 年)
宮西 浩二 (工学部 2 年)
篠永 有美 (農学部 2 年)